琉球大学学術リポジトリ

文献メモ：『貝幣ノ変遷』新渡戸稲造

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2018-04-16 キーワード (Ja): 矢内原忠雄, 経済, 新渡戸稲造 キーワード (En): Yanaihara Tadao 作成者: 矢内原, 忠雄 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/37938

矢内原忠雄文庫

史料名	和田垣教授在職25年記念『貝幣ノ変遷』新渡戸稲造
封筒番号	10
原文所所蔵者	琉球大学附属図書館
撮影年月日	平成 17 年 11 月 9 日
撮影者	富士写真フイルム 株式会社
備考	

矢内原忠雄文庫

封筒番号： 10

史料名	和田垣教授在職25年記念『貝幣ノ変遷』新渡戸稲造
資料形態	ノート
枚　数	3
頁　数	3
縦（cm）	
横（cm）	
厚さ(cm)	
書誌的事項	南洋 論稿を書き写したもの 今泉分類記号： Y

和田垣教授在職二十五年記念　経済論叢

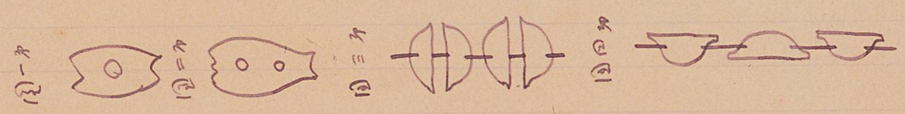
貝幣ノ変遷（一頁ノ稿迄）

（九二二）―（九二三）一三―一四頁

「右の如く装飾用に護符的の價値が加はるに至れば何物と雖も廣く需要せらるるに至る、於是乎宝貝が初めは交換の目的物となり延いて交換の媒介となり遂には交換の標準となる、幸に其形も大いさも誠に程好いから一層流通の便を充す様になつた。

流通に供する貝は其自然の状態のまま使用されたか將又何等かの人工を加へられたかは講究に値する問題である、自然のままで通用することは諸處に於て行はれた、現に印度の北方の田舎でも左様である、然るに之は云はば金銀の地金のまま通用する如きもので金銀の様に内容的價値ある物でさへも通貨とするには何等か人工を加へて一層流通に便ならしむる工夫をする、貝に於ても一般需要に應じ易くするには相当の加工が望ましくなるであらう、此處に於て殊更興味ありと思はるることは貨の字の起源である。

倩とは貝の変化したるの謂で自然のままの小に細工を加へたるを示したものらしい。貝は天然に光澤があつて美麗であるが、早と装飾用に供するには多少人工を加へねば成らぬ。十人も孔を穿たねば連ぶこと即ち文字に現はるる如く貫くことが出來ぬ。而して我輩の見たる所では孔を穿つに二様である。即ち一孔（第一圖）を穿つのと二孔（第二圖）を穿つのとである。前者は第三圖の如く後者は第四圖の如くに示して貫して數珠状装飾に供する。此の法は今猶諸方の海人間に行はれつつある。」（二一頁）



第一圖　第二圖　第三圖　第四圖

（九三）—（九三四）
一五—一六頁

「右の陳述により推測するに貝子を裝飾に使用し延いて貝を貨とする方法は四つあると思ふ。

1. 一孔を穿つこと。
2. 二孔を穿つこと。
3. 背を平たく切ること。
4. 色を以て染むること。

是等の法は種族の風俗によりて異なる筈であるが未だ判然した調査も聞かぬ、今日諸所に採掘される物は大抵右の四法の一つに従ふものである。」（五—一六頁）